

# ITSSベーシックコース 教育制度と教材について



スキル標準ユーザー協会

教育推進委員会

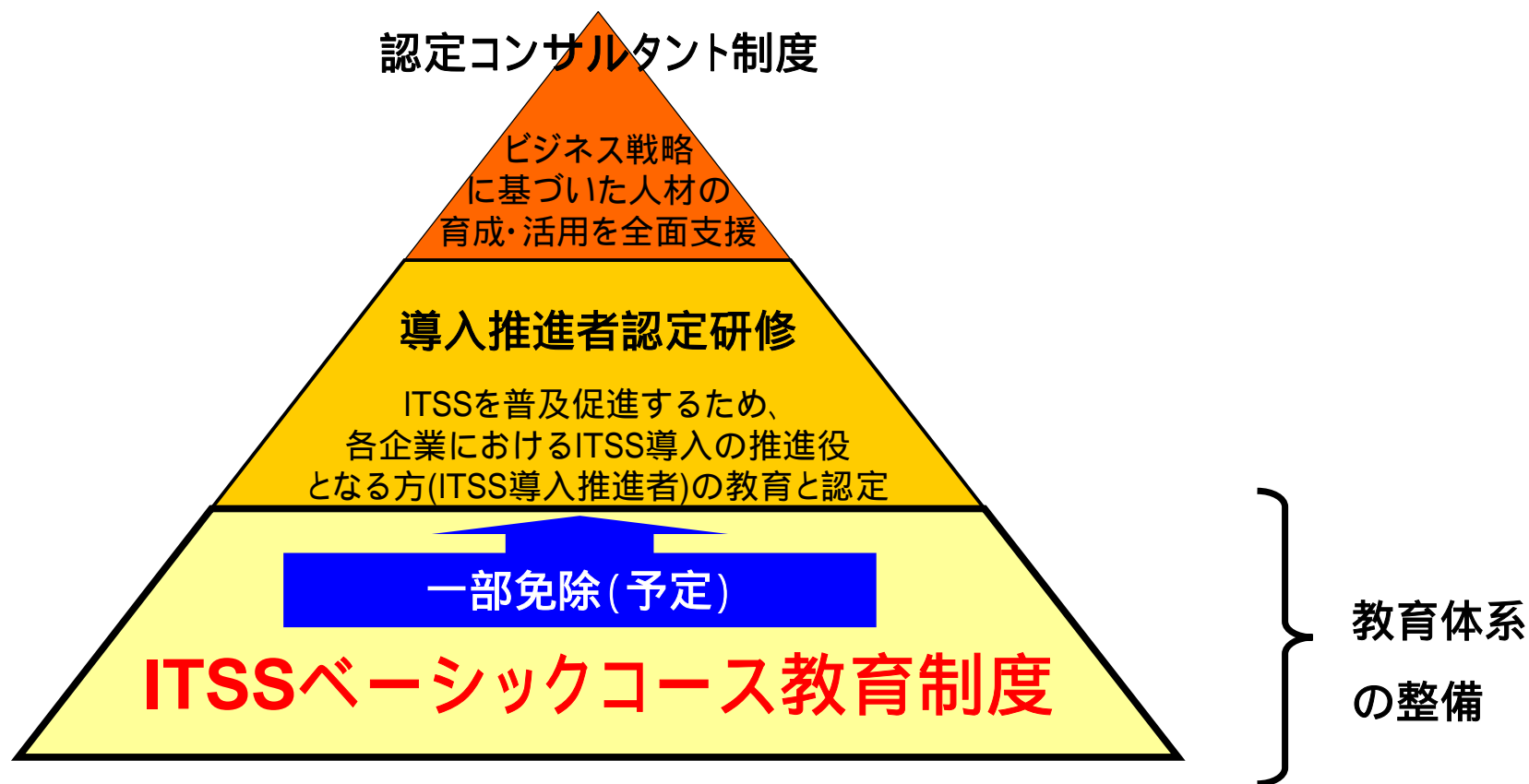
西川靖俊

株式会社CXO

## 項目

- 1 . ITSS のカリキュラム体系
- 2 . ITSS ベーシックコース教育制度
- 3 . 登録インストラクター制度
- 4 . 認定校制度
- 5 . ITSS ベーシックコース講座の開催
- 6 . ITSS ベーシックコース教材の概要

# 1. ITSSのカリキュラム体系



導入推進者研修 ~ ITSSベーシックコースまでの一貫した教育制度を整備する

## 2.ITSSベーシックコース教育制度



### 趣旨・目的

これからのIT高度人材の育成のための手助けとなるITSS(ITスキル標準)を、広くかつ正しく理解してもらうことは、今後の人材育成には欠かせないことです。ITSSベーシックコースはそのための土台とも言うべきITSSの基礎知識の習得を目的に作成されました。ITSSベーシックコース教育制度では、インストラクターの養成と登録制度、研修を開催する認定校制度を通して、ITSSの普及を促進します。

### ITSS教育研修小委員会メンバー(平成20年4月 発足時)

- ・株式会社日立インフォメーションアカデミー  
研修部 武重 勉
- ・株式会社日立システムアンドサービス  
人事総務本部 人財教育部 二和田 寛、和田 修一、小嶋 美代子、志水 信幸、
- ・プロソフトトレーニングジャパン株式会社  
経営企画室 遠藤 直、教育開発本部 鈴木 範子
- ・株式会社CXO  
西川 靖俊、菅野 栄作

### 受講のメリット

- ・上位認定研修である導入推進者認定研修の一部受講免除(予定)
- ・主催者毎の異なるカリキュラムの選択
- ・ITSSユーザー協会からの修了証の発行

## 3. 登録インストラクター制度

### ITSSベーシックコース インストラクター登録制度

一定スキルのあるインストラクターを育成し、ITSSベーシックコースの普及をはかる  
ベーシックコースインストラクター登録制度

#### 登録インストラクターの特典

最新カリキュラムの提供  
講義スライドの提供

用語集の提供  
コミュニティの提供

ITSSユーザー協会ホームページに登録インストラクターを公開予定(希望の方のみ)。

#### 登録の条件

- (1) 企業で1年以上のインストラクターの経験があり、十分な講師経験を有すること。  
(所定の書類によりITSS教育研修小委員会が確認させていただきます)
- (2) インストラクター研修 を修了していること。
- (3) インストラクター更新研修 を原則年1回受講すること。

…インストラクター(更新)研修は、ITSS教育研修小委員会が認定する会員企業にて開催されます。

### 第1回インストラクター研修は、10月に東京で開催

登録インストラクター(平成12年12月1日現在)

14名

## 4. 認定校制度



### ITSSベーシックコース 認定校制度

ITSSベーシックコースの講座を開催できる団体を認定し、講座の実施を支援します。

#### 認定校の特典

公式カリキュラムに基づく研修の実施

教材(公式カリキュラム準拠)購入割引制度

カリキュラム毎のITSSユーザー協会認定の修了証の発行(別途費用)

#### 認定の基準

- (1) ITSSユーザー協会の法人会員であること。
- (2) 教育プログラム運営に必要な人員、組織等が整っていること。
- (3) 講座開講のための施設等が整っているか、十分な施設等を用意できること。
- (4) 登録インストラクターを準備できること。(外部への依頼も可)
- (5) ITSSベーシック教材を使用すること。

#### 認定期間と費用

認定期間は、認定の日から「2年間」となります。

認定および更新に関する事務手続費用は、「3万1,500円」です。(消費税込み)

## 5 . ITSSベーシックコース講座の開催



### 認定校とそれ以外の団体による分類

実施パターン	認定校		非認定校	
	企業 (研修事業者含む)	教育機関 (専門学校等)	企業 (研修事業者含む)	教育機関 (専門学校等)
組織内に登録インストラクターがいる	コース(講座)の外販 (例:公開講座、顧客先での講座開催、等)		×	×
	組織内でのコース(講座)開催			
	登録インストラクターの派遣			
組織内に登録インストラクターがいない	コース(講座)の外販 (例:公開講座、顧客先での講座開催、等)		×	×
	組織内でのコース(講座)開催			
	登録インストラクターの派遣	×	×	×

- …実施できる。プラス認定校の特典付与(公式教の割引購入可、講座修了者に修了証発行、等)。
- …実施できる。但し認定校の特典は付かない。
- …登録インストラクターを調達するか、認定校に依頼することで、実施できる。
- ×…原則として、実施できない。

第1章 ITSSの構造

第2章 ITSSの背景

第3章 ITSSの導入と活用

一般共通の視点、社員の立場と視点

第4章 ITSSの導入と活用

企業の立場と視点

## 第1章 ITSSの基本構造を理解できる。

ITSSの基本構造を理解し、部下に説明できる

## 第2章 企業がなぜITSSを導入しているか理解できる。

IT業界の状況、高度IT人材育成とITSSの必要性、部下の育成のためのITSSと企業の考え方を理解し、説明できる。

## 第3章 ITSS導入の目的、個人のスキルを活かすためのスキル構造を理解できる。

ITSS導入の留意点、導入から実践の具体的な流れやポイントを理解できる。

ITSSを利用した人材育成の考え方を理解し、ITSSのメリットを説明できる。

## 第4章 人材開発に対する考え方の変化を知り、具体的な人材マネジメントの方法を理解できる。

ITSS導入の留意点を理解できる。

経営戦略に基づいた人材育成(目標人材モデルの策定)、ITSSを利用した人材調達(必要人材モデルの策定)の方法を理解できる。

2008/12/11

# 第1章 ITSSの構造



## 内容

1. ITSSの基本構造
2. ITSSの概念構造
3. ITSSの構成要素 = キャリア編
4. ITSSの構成要素 = スキル編
5. ITSSの留意点・課題

「概要編」、「スキル編」、「キャリア編」の3部と、「付属書」からなる、ITSSのドキュメント体系、ITSSの概念構造から解説しています。

次に、「スキル編」、「キャリア編」の構成要素である、スキルディクショナリ、達成度指標、キャリアフレームワーク、スキル熟達度などについて、その構造、考え方について解説しています。

本章の最後では、企業と個人(社員)の双方に対して、キャリア形成のナビゲーションの役割を果たすことを目的とした、ITSS活用の留意点と課題をまとめています。

# 第1章 目次・構成



## 1. ITSSの基本構造

1.1 ITSSのドキュメント体系

1.2 「キャリア編」～ビジネスの各局面に応じた専門職種を定義～

1.3 「スキル編」～成果達成のために習得必要なスキル/知識を定義～

## 2. ITSSの概念構造

2.1 人材能力の捉え方の構造

2.2 ITSSの概念構造

## 3. ITSSの構成要素＝キャリア編

3.1 キャリアフレームワークの概要

3.2 職種の概要

3.3 達成度指標の概要

3.4 ビジネス貢献を評価する三つの項目

3.5 プロフェッショナル貢献の評価方法

## 4. ITSSの構成要素＝スキル編

4.1 スキルディクショナリ

4.2 スキル熟達度

4.3 スキル領域

4.4 研修ロードマップ

## 5. ITSSの留意点・課題

5.1 ITSSの評価尺度の内容と使い方

5.2 ITSSに対応した評価

5.3 ITSSのレベルイメージ

5.4 ITSSが扱っていない範囲

## 第2章 ITSSの背景



### 内容

#### 第2章 ITSSの背景

1. 「新経済成長戦略」が示す、これからの日本
2. これからの情報サービス産業とITSS
3. 高度IT人材育成をめざして
4. なぜ、ITSSが必要なのか
5. ITSSの狙い

「新経済成長戦略」が示す、これからの日本の中長期戦略から、ITSSの誕生と関係性を解説します。

ITSSを一時的な政策と考えるのではなく、昨日ー今日ー明日の中で役割を見ていく必要性和本質を解説します。

そのような環境の中で、「なぜ、ITSSが必要なのか」、「ITSSがどのように人材育成に役立つか」を、新経済成長戦略とITSSを説明しています。

また、これからの情報サービス産業の課題とITSS、高度IT人材育成の現状と課題を解説しています。

## 第2章 目次・構成



1. 「新経済成長戦略」が示す、これからの日本
  - 1.1 新経済成長戦略とITSS
  - 1.2 新経済成長戦略の目指すもの
2. これからの情報サービス産業とITSS
  - 2.1 情報サービス産業の現状
  - 2.2 ITによる生産性の向上
  - 2.3 ビジネス・イノベーションとCIO
3. 高度IT人材育成をめざして
  - 3.1 IT人材を巡る構造変化
  - 3.2 高度IT人材育成の現状と課題
4. なぜ、ITSSが必要なのか
  - 4.1 情報サービス産業の環境変化
  - 4.2 事業戦略に基づく人材育成投資の必要性
5. ITSSの狙い
  - 5.1 ITSSによる人材育成
  - 5.2 多様化するスキルとキャリアパス
  - 5.3 人材育成とITSS
  - 5.4 ITSSは、どんなメリットをもたらすか

# 第3章 ITSSの導入と活用

## 一般共通の視点、社員の立場と視点



### 内容

1. 一般共通の視点
2. 社員の立場と視点

第1章と第2章では、ITSSの仕組みと必要性と狙いを説明しました。  
第3章と第4章では、それぞれの立場から具体的なITSSの導入の仕方について考えていきます。

導入の仕方は、それぞれの立場により視点が異なります。

( ~ に)一般共通の立場  
社員の立場  
企業の立場  
調達の立場

第3章では、一般共通の立場と視点、社員の立場と視点から、ITSSを導入する目的、導入方法、手順などを解説しています。

## 第3章 目次・構成



### 1. 一般共通の視点

- 1.1 ITSS導入の目的
- 1.2 ITSSをどのように活用すべきか(IPA出典より)
- 1.3 ITSSの導入手順
- 1.4 ITSS導入の方法

### 2. 社員の立場と視点

- 2.1 企業の人材戦略と社員(個人)のキャリア開発
- 2.2 ITSSを活用したキャリア開発とスキル開発の考え方
- 2.3 職位とスキルの関係
- 2.4 人材像を構成するスキル構造

### 内容

1. ITSSの人材開発への活用について
2. 人材マネジメントへの活用
3. ITSS導入の課題
4. 経営戦略に基づいた人材育成 = 目標人材モデルの策定
5. ITSSを利用した調達 = 必要人材モデル

第4章では、企業の立場と視点、調達の立場と視点から導入・活用方法を解説していきます。

ITSSの活用による、エンジニアのやる気を阻害する要因の解決や、人材マネジメントの「見える化」など具体例やチェックリストを使って、企業の立場と視点からのITSSの導入と活用について解説しています。

また、「要求モデル」、「ファンクションモデル」の例を示し、経営に基づいた人材の育成のための「目標人材モデル」の策定手順を示しています。

プロジェクトを円滑に遂行し、成功に導くための人材像として位置づけられた「必要人材モデル」を示し、ITSSを活用した調達について説明しています。

## 第4章 目次・構成

- 1. ITSSの人材開発への活用について
  - 1.1 ビジネス・イノベーションを駆動するITSS活用
  - 1.2 人材開発の考え方に対する変化
  - 1.3 ITエンジニアのやる気を阻害する要因
  - 1.4 ITSS活用による阻害要因の解決例
- 2. 人材マネジメントへの活用
  - 2.1 人材マネジメントの「見える化」
  - 2.2 人材マネジメントのP-D-C-A
  - 2.3 人材マネジメント力の自己診断チェック
  - 2.4 ITSSの人材マネジメントへの活用
  - 2.5 ITSS導入の目的
- 3. ITSS導入の課題
  - 3.1 ITSSの具体的導入・活用
  - 3.2 ITSS導入前のチェックリスト
  - 3.3 ITSS導入実施上のポイント
- 4. 経営戦略に基づいた人材育成 = 目標人材モデルの策定
  - 4.1 ITSS導入の流れ = 目標人材モデルの策定
  - 4.2 要求モデルの例
  - 4.3 目標人材モデル設定手順
  - 4.4 「To - Be」ファンクションモデルの例
  - 4.5 企業ごとのキャリアフレームワークの例
  - 4.6 企業独自のキャリアフレームワーク
  - 4.7 導入アプローチと運用
- 5. ITSSを利用した調達 = 必要人材モデル
  - 5.1 必要人材モデルの考え方
  - 5.2 調達要員の考え方
  - 5.3 コミュニケーションツールとしてのITSS
  - 5.4 社内共通語としてのITSS

2008/12/11

ご清聴、ありがとうございました。

詳細お問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

お問合せ先: ITSS教育研修小委員会  
事務局(株式会社CXO内)

TEL: 03 - 5823 - 1145

FAX: 03 - 5823 - 1147

E Mail: info@cxo.co.jp

URL: <http://www.cxo.co.jp/>

受付時間 9:30 ~ 17:30(土曜、日曜、祝祭日、年末年始を除く。)